

次代を拓く

緑茶成分で病臭を大幅にカットする消臭シート

国内はもちろん、世界にも通じる静岡県の「ものづくり」。

次代を拓く力に溢れ、新技術や新分野で期待される県内企業を紹介する。

医療現場の声に響いて開発

保冷材のノウハウを活用して消臭効果と汎用性を両立

進行したがんは不快な病臭を出すことがある。がん細胞が壊死すると細菌感染を引き起こすからだ。かつて病臭は我慢の対象だったが、近年の医療現場では患者の闘病意欲を減退させることが課題になっている。そこで県立静岡がんセンター（長泉町）は、静岡県が推進するファルマバレープロジェクト（富士山麓先端健康産業集積プロジェクト）を通じて（株）トライ・カンパニー（沼津市）と連携し、消臭効果が高く、使用感にも優れるデオドラント“ケア”シリーズを開発した。

トライ・カンパニーは平成2年に創業した保冷材メーカーだ。グルメboomやネット通販の波に乗って業績を伸ばしてきた。表面が結露しない不織布の保冷材を開発した業界のリーディングカンパニーでもある。

静岡がんセンターは、同社と連携する以前から、東京都大田区の高砂香料工業（株）と病臭およびその消臭の共同研究を進めていた。その中で、病臭対策に取り組む病棟看護師は、高砂香料工業が開発した消臭成分を混ぜたパテを作り、ガーゼに塗って患部に貼っていた。しかしパテを塗ったガーゼは、1日3～4回の交換が必要なため、医療スタッフの負担になっていた。そこで同センターはパテのシート化をトライ・カンパニーに依頼。約3年の開発期間を経て、平成25年、デオドラント“ケア”シートの製品化に成功した。

デオドラント“ケア”シートは高砂香料工業が開発した緑茶ポリフェノールの粉末



デオドラント“ケア”シリーズ。スティックタイプは人工肛門や人工膀胱に使われるストーマ袋に入れて使用する。販売に関する問い合わせは日本メディカルプロダクツ。（電話：03-3663-6110）

をシートに定着させ、それを吸湿性や衛生面に優れた不織布などで挟む三層構造になっている。病臭の消臭効果は非常に高く、患部の面積や形に応じて自由にカットできるため、がん患者に限らず、あらゆる病臭に対応可能だ。患者の反応も想像を上回り、「治療に前向きになれる」「外出が楽しみになった」という声が寄せられている。

同社の副社長・水田裕文さんは「温度や鮮度管理のプロとして今後も医療、健康、福祉の世界で貢献していきたい。現在はがん患者の痛みをケアするホットジェル（蓄熱材）を開発中です」と語る。

緑茶と静岡の「ものづくり」が生んだ明日への期待。新しい技術には人を前向きにする力がある。



三層構造になったデオドラント“ケア”シート。吸湿効果があるため多汗症の人でも使用できる。



不織布を使用した保冷材。表面に結露が生じないため、温度管理とともに品質保持も期待できる。

開発チーム



デオドラント“ケア”シリーズの開発チーム。左から菊田裕子さん、副社長の水田裕文さん、開発担当の岩瀬栄子さん、山口義弘さん。

Company Data

株式会社トライ・カンパニー

〒410-0005 沼津市双葉町9-11-4 沼津テクパーク
電話：055-920-7111